

# DID/VC共創コンソーシアム

## 相互運用性に向けた検討書

2024年3月

世界が進むチカラになる。



# 目次

---

1. 背景・目指す方向性
2. 第1期検討結果
3. データフロー整理図から抽出した相互運用性実現に向けた論点
4. データフロー整理図から抽出した相互運用性実現に向けた論点と討議結果

# 1.背景・目指す方向性

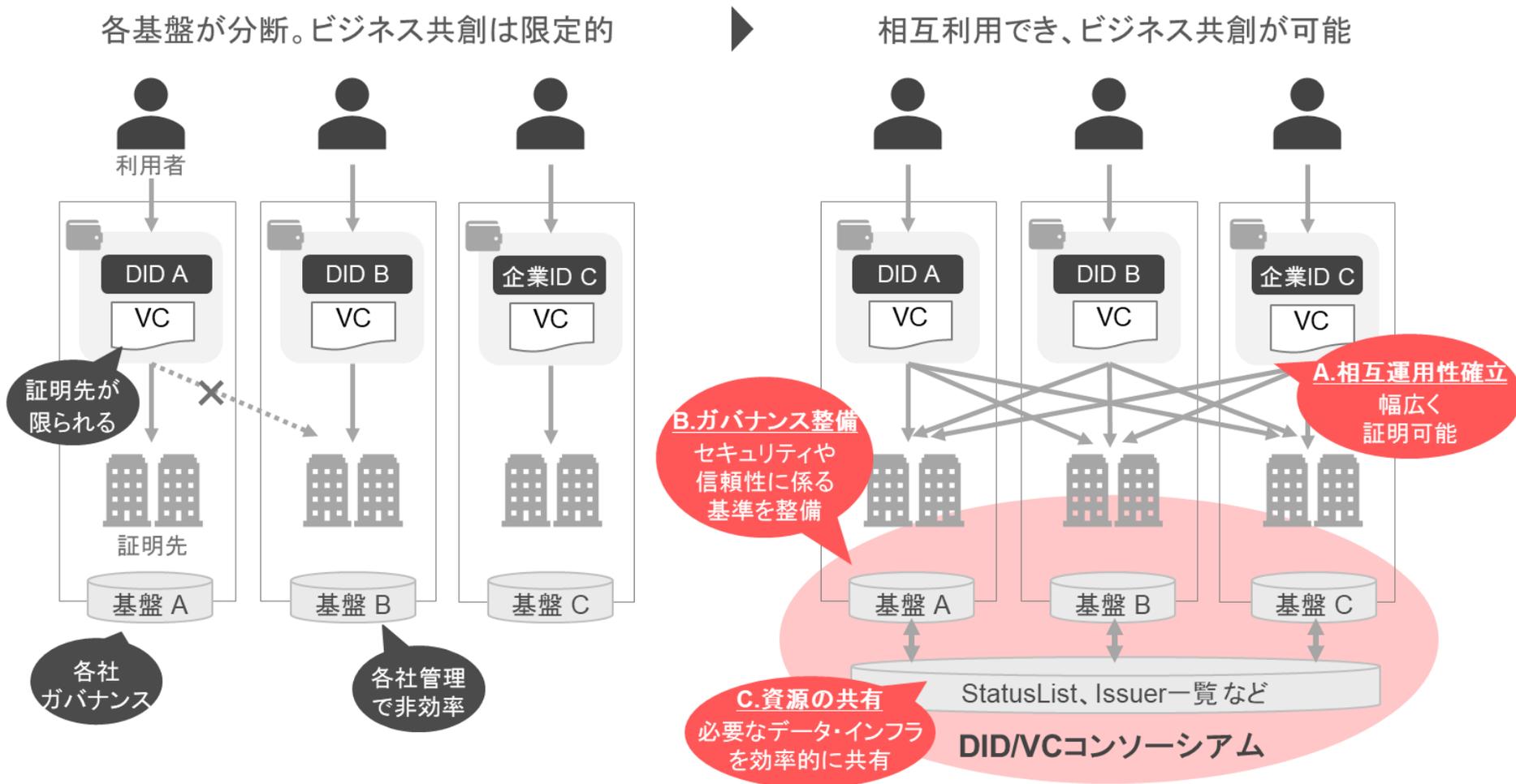
本コンソーシアムは日本におけるDID/VCを活用したビジネス共創及び相互運用のルール整備を企図  
ルール整備分科会の第1期では当該技術を活用したサービスを提供、または研究開発を進める会員企業  
各社の仕様調査を実施



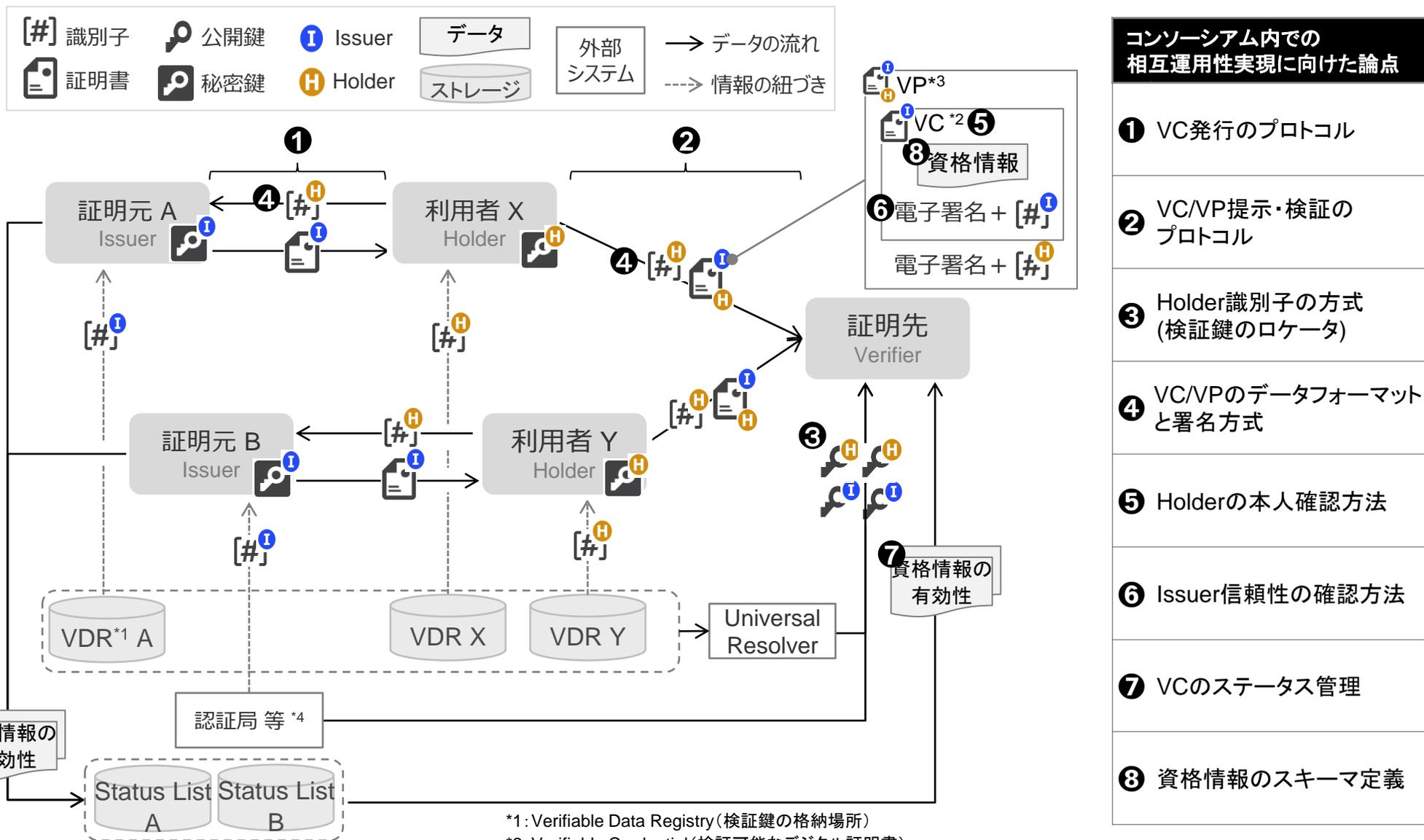
ルール整備分科会第1期参加者(五十音順)及び、リーガルカウンセル

## 2.第1期検討結果

現時点では当該技術のデータ流通規格に仕様の差異が発生しているため、サービス普及に課題有り  
調査の結果、企業横断で仕様のすり合わせが必要な領域を特定(相互運用性、ガバナンス整理、資源共有)



### 3.データフロー整理図から抽出した相互運用性実現に向けた論点



- コンソーシアム内での相互運用性実現に向けた論点**
- VC発行の Protokol
  - VC/VP提示・検証の Protokol
  - Holder識別子の方式 (検証鍵のロケータ)
  - VC/VPのデータフォーマットと署名方式
  - Holderの本人確認方法
  - Issuer信頼性の確認方法
  - VCのステータス管理
  - 資格情報のスキーマ定義

\*1: Verifiable Data Registry (検証鍵の格納場所)  
 \*2: Verifiable Credential (検証可能なデジタル証明書)  
 \*3: Verifiable Presentation (検証可能なデジタル証明書の提示)  
 \*4: X.509 証明書を用いる場合などを想定

## 4. データフロー整理図から抽出した相互運用性実現に向けた論点と討議結果

論点8項目への各社意見を取り纏め、その内7項目について、ルール整備を進めていくことを合意

相互運用性に関する論点		A. 相互運用 性確立	B. ガバナンス 整備	C. 資源共有	第1期 討議結果
①	VC発行の Protokol	○	-	-	普及が見込めるOID4VCIから優先検討。特別な要件がある場合はDIDComm等を個別検討。
②	VC/VP提示・検証の Protokol	○	-	-	普及が見込めるOID4VP/SIOPv2から優先検討。特別な要件がある場合はDIDComm等を個別検討。
③	Holder識別子 (検証鍵のロケータ)	-	-	-	(現状仕様にて、各社間の相互運用性が担保できると捉え、本会のスコープ外)
④	VC/VPのデータフォーマット と署名方式	○	-	-	SD-JWT、JWT/JWS、JSON-LDから優先検討。特別プライバシー保護が必要な場合はAnonCredsかBBS+署名の利用を個別検討。
⑤	資格情報のスキーマ定義	○	-	-	VC活用の幅を狭めぬよう整理を進める。 【必須項目】【任意項目】【自由に設定可能な属性項目】の3つの観点で検討。
⑥	Holderの本人確認方法	○	○	-	業務目的に合わせたリスクレベルの設定、及びリスクベースでのガバナンスレベルと実現方式を整理。 ユースケース横断で利用可能な汎用的なレベル分類も検討。
⑦	Issuer信頼性の確認方法	○	○	○	ユースケース毎にVerifierの業務目的に合わせて必要となる信用の基準の設定、および実現方式を整理。 VerifierにおけるIssuer情報検索の利便性向上のためのIssuer一覧(TrustList)の作成も検討。
⑧	VCのステータス管理	○	○	○	ユースケース毎に、Verifierの業務目的に沿った業務運用の観点からVCのステータス管理に求める要件を整理。 実現方式は、W3C Status Listから優先的に検討し、ステータス情報の配置場所についてはコンソーシアムでの運用も検討。

# DID/VC共創コンソーシアム

dvcc\_post@tr.mufg.jp

